

新型コロナ・県内医療機関の風評被害協会調査

“42医療機関で風評被害”マスコミ各社が報道

茨城県保険医協会では4月下旬に新型コロナウイルスの影響に伴う医科医療機関への風評被害を調査。アンケート調査に回答した285医療機関のうち、42医療機関が「風評被害あり」と回答した。

4月27日に調査結果をマスコミ各社に発表したところ、NHK・茨城新聞・読売新聞・朝日新聞・毎日新聞の各社でその内容が報道された。また、茨城県の新型コロナウイルス感染症対策専門家会議において医療機関に対する風評被害が議論されているが、具体的事案について情報が乏しいということで、茨城県保健福祉部福祉指導課人権施策推進室から調査資料提供依頼を受け、資料を提供している。

協会では調査結果を受けて、発熱症状等がある場合の受診前の医院への連絡が大変重要であること等について声明を発表した。調査結果概要は下記のとおり（※協会声明は2面・右下に掲載）。

【調査方法】

実施期間：2020年4月17日（金）～4月22日（水）
実施方法：当会所属の会員医療機関宛にFAXで調査用紙を送信
回答数：
医科診療所：796医療機関中263医療機関が回答（回答率：33%）
病院：102医療機関中22医療機関が回答（回答率：22%）
全体：898医療機関中285医療機関が回答（回答率：32%）

【調査結果】

設問1：新型コロナウイルスの影響に伴う医療機関への風評被害はあったか。

	(1) あった	(2) なかった
医科診療所	35件 (13.3%)	228件 (86.7%)
病院	7件 (31.8%)	15件 (68.2%)
全体	42件 (14.7%)	243件 (85.3%)

設問2：設問1で「(1) 風評被害があった」とお答え頂いた場合、その内容は。

【医療機関に対する内容（※抜粋）】

- ・当院からコロナ患者が発生して、しばらく休診になるとの風評で患者減少。
- ・新型コロナウイルス患者の受け入れ等についてさまざまなデマあり。採用活動にも大きく影響があった。
- ・当院でコロナ感染者が出たと、ツイッターでつぶやいている方がいて、昼夜問わず問い合わせが多数あった。
- ・「〇〇市内で最初に陽性となった患者はそちらに救急車で運ばれたのでしょうか？そちらの医院は危険なんでしょう？」とTELで患者さんから言われた。当院ではコロナ陽性が出ていないと伝えたが、電話をしてきた患者さんの周辺ではそのような噂になっている。
- ・疑い患者を診察した後、「先生のところでコロナの人を診察していたから行くとかあぶない」と近所の人がいっていたが本当か、と電話で問い合わせがあった。

【医療機関職員に対する内容（※抜粋）】

- ・職員の家族が、「奥さんは医療関係者だから新型コロナウイルスを持って帰ってくる」と言われている。
- ・従業員（看護師）のお子さんが「あの子のお母さんは病院勤務だから遊んではいけない」「看護師のお子さんは騒音が収まるまで学校に通わせるべきではない」と言われた。
- ・当院医師の1人が、コロナ患者受け入れ病院でも勤務しているため「あぶない」「こわい」等、患者間で話が広まっている。

設問3：設問1で「(1) 風評被害があった」とお答え頂いた場合、来院する患者数に変化はあったか。

【風評被害があったことによって、患者数に変化があったか？】

	(1) 減少した	(2) 変化なし	(3) その他
医科診療所	30/35件(約86%)	1/35件(約3%)	4/35件(約11%)
病院	6/7件(約86%)	0/7件	1/7件(約14%)
全体	36/42件(約86%)	1/42件(約2%)	5/42件(約12%)

※分母は設問1で「風評被害があった」と回答した件数



新聞各紙で報道された協会調査

設問4：「新型コロナウイルスの影響について、今、困っていること」（回答抜粋）。

【患者減少に関する内容】

- ・患者がコロナを恐れて来院しない。予約日前に電話の問い合わせが多発。
- ・3ヶ月分の定期処方希望が増えている。不安が強く、安定剤の希望者が増えた。感冒といって来院した時はかなり状態が悪い。
- ・コロナウイルスの感染が怖いのでリハビリ通院を遠慮したいという患者が複数いる。
- ・診療予約を先延ばしにする方が多い。
- ・患者減少につき、数ヶ月後の収入減が予想される。

【感染への不安に関する内容】

- ・コロナウイルス感染によるクリニック診療停止への不安。
- ・来院した患者がコロナ陽性だとわかった場合、濃厚接触であっても、たとえそうでなくても、どう対処したらよいか？
- ・動線分離など自施設では限界がある。
- ・風邪症状で検査依頼もできない可能性がある患者はどういう対応がベストなのか。
- ・スタッフが感染対策で疲弊、ストレス増大。
- ・さまざまな感染予防策を検討しながら診療を行っている。患者数は少なくなったが、感染対策に費やす時間が増え、労力が多く疲弊。
- ・発熱、咳、鼻汁も含め、感染症状の人は全例コロナを疑って、入口別、診察室も一室として対応している。キャップや防護服、手袋、フェイスシールドは全例に必要なのか悩んでいる。
- ・感染の不安からスタッフが退職した。求人の応募者がほぼゼロになった。
- ・保健所からの指示で来院する場合、前もって電話連絡をしてもらいたい。
- ・連絡無く来院し、診察室で発熱等コロナ感染かもと口にする。
- ・診療所の入口に「風邪症状の方は院内に入る前に連絡を」という貼り紙をしているが、それを見ずに入ってくる。ただの風邪だから自分は違うと言い張る。
- ・コロナに対する認識が足りない患者が多い（マスクをしない、風邪かわからないが咳をする）。
- ・患者の中にはコロナ感染を過剰に心配する人がいて、コロナ感染ではないと診断しても納得してもらえない。